

令和7年6月定例会 一般質問 小西高吉議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。)

「中学校部活動地域移行について」

○小西高吉 ただいま議長のお許しをいただきましたので、私の一般質問をさせていただきます。

今回もと言ったほうがいいんでしょうけど、中学校部活動地域移行についてと、今回この1本だけを質問させていただきます。

来年4月から休日の部活動を学校の先生が指導するのは廃止だということで、県知事がおっしゃられてもう一年を切りました。そんなこともありまして、しつこくしつこくこの課題についてお聞かせいただいているんですが、今回も改めていろいろ疑問に思うところを聞かせていただきます。

中項目として、受皿団体の考え方についてということで、部活動の地域移行は本来学校部活動から地域のスポーツ、そして文化団体への主体的な移行が前提でスタートしております。持続可能な社会地域社会づくりとも深く関わる施策です。ところが、香芝市では受皿の中心を教育委員会自身が担おうとされておられます。これでは、学校外への移行という国の方針に逆行するのではないかとということも懸念させていただいております。

一体なぜ香芝市は移行ではなく、教育委員会が実質的に運営を引き続き抱え込むような逆行的な持続性のない方向に進もうとされているのか。ほかの自治体では、既に総合型地域スポーツクラブ、地域、そしてNPO、地域文化団体などを育成、連携し、持続可能な形に転換もし始めておられます。それに対して、香芝市は組織の育成も支援もせず、地域への責任転嫁を避ける姿勢に終始しているようにしか見えません。

教育委員会が主導するならば、それは地域移行と呼べないというようにも思います。もちろん、奈良県、国に確認もされた中で進めておられることだとは思いますが、そもそも本市は地域で受皿団体をつくる努力をどれだけされてきたのか。地域の団体の育成や支援制度の構築、連携の仕組みづくりに本気で取り組んでこられたのか。地域側の準備もせず教育委員会の中で完結できるかのように進めるのであれば、それは単なる責任回避の延命措置だと思います。理念と現実が乖離しているとも考えます。

なぜ香芝市は地域のスポーツ団体や文化団体、NPO法人等の育成、連携を主軸とせず、教育委員会の管理下に置いたまま地域移行を進めようとしているのか。その理由と今後の地域団体の役割、拡充に対する方針について明確な答弁をお願いいたします。

1つ目に、香芝市は教育委員会が受皿となることを、いつ、どのように決定したのか、正式な方針決定のプロセスをお伺いいたします。

以上で、1回目の壇上からの質問とさせていただきます。答弁よろしくお願いします。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 教育委員会事務局での検討の結果、令和7年1月に地域クラブ活動の導入に当たり、教育委員会事務局が実施主体になることを決定いたしました。令和10年度には地域クラブ活動の実施主体を地域団体に移行することを目標としています。

決定に当たりましては、地域クラブ活動への移行に関して意見交換の場である香芝市地域クラブ活動推進会議で出された兼職兼業を希望する教職員の力を借りたいというご意見等を反映しています。

以上です。

○小西高吉 答弁ありがとうございます。

結局は、教育委員会内で決定されたと。ただ、教職員さんの兼職兼業については、その会議の声を取り入れてるといようなこともありました。次に国の制度設計における地域主体の原則を香芝市はどのように解釈されているのか。教育委員会主体の運営が認められていると考えておられるから進めておられるんだと思うんですが、その点いかがですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 国の制度設計における地域主体の原則とは、これまで学校が主体となってきた部活動を自治体のスポーツ及び文化活動担当部局、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブなど地域の多様な団体が運営し、実施する地域クラブ活動に移行することであると理解をしています。この運営については、教育委員会事務局が主体の場合も認められております。

以上です。

○小西高吉 県の手引も見させていただいたら、教育委員会がということも明記はされておりますので、違法ではないというようには認識させていただいております。

先ほど、令和10年度からと、地域の団体に移行するということもおっしゃっていただいていたんですが、根本的にこれ私が最初言い出したのが令和2年12月議会に最初に提議させていただいてるんですが、そこから、最初は令和5年度からスタートって言ってたのが令和8年度というように国のほうも延ばしてきたわけなんです。令和8年度4月に向けては、最初の時点ではどういうふうに進めていこうとされていたのか、その点ちょっと確認させていただきますか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 正直、その当時は手探りの状態もあったんですけども、スポーツ庁の実証事業等を活用いたしまして、どういう形が香芝市にとってよい選択となるのかの研究をいたしておりました。

以上です。

○小西高吉 研究された結果、今は教育委員会が主体であるほうが良いだろうという判断になったという認識なんですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） はい。議員お見込みのとおりです。

○小西高吉 そしたら、最初は地域の団体にも移行する方向、もちろん国の方針としてはそ

れが方針だったんで、それに向かって進めてこられたが、今は教育委員会がということなんですけど、ちなみに地域団体の支援に向けた香芝市の具体的な策、具体策として予算措置、人材育成、制度設計、そういうものは何かございましたか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 中学校部活動の地域移行に当たり、令和10年度を目標に地域クラブ活動の実施主体を地域団体に移行する予定のため、令和9年度までに財政的な支援や制度設計についての詳細を定める予定としております。

人材育成につきましては、令和8年度から本市の地域クラブでの指導を希望される方を対象に指導者研修を計画していく予定としております。

以上です。

○小西高吉 というのは、9年度ですね。それまでというか、今まではされたことがないという認識になるんですか、そこから行くと。先ほど質問させていただいた地域団体の支援に向けた香芝市の具体策はしてなかったという認識でよろしいですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） はい。研究中でして、具体の動きはなかったということになります。

以上です。

○小西高吉 正直、これいろんなほかの自治体のやつも調べさせていただいて、一番近隣でいくと大和高田市、令和5年に委員会を設置されて、その中でいろいろ会議を開く中で進めてこられて、ホームページを開くと、部活動の地域移行、やまとたかだ地域クラブ、ALL TAKADA PROJECT、令和7年度・令和8年度の取り組みという、こういう冊子が出てくるんですけどね。香芝市、正直ホームページを見ても、アンケートの部分はもちろんあるんですけど、これ2枚しかないんですね。中学生を対象とする香芝市の地域クラブがスタートしますっていうのと、香芝市立中学校令和7年度以降の部活動及び休日地域クラブ活動についてと、これ1枚ずつ、これ2枚しか出てこないんですよ。

そんなこともあるんで、あえて聞かせていただいているんですけど、正直私としても令和2年度から申し上げてるこの案件が何でほかのところ、多分香芝市より遅くにこういう案件が上がってきたというか、取組まれたという中で、進んでるところがあるというのがね。香芝市もうちょっと進めなかったのかなという疑問もあるんで、何回も何回もこれ聞かせていただいているんですけど。

次に、地域移行の基本理念に対する教育委員会の理解はいかがですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 地域移行の基本理念ですが、地域の多様な主体が運営、実施する地域クラブ活動が基本であると考えております。

本市といたしましても、いつまでも教育委員会事務局が主体となって運営しようとしているわけではありません。令和10年度を目標に地域の団体や総合型地域スポーツクラブ等にお任せすることを考えております。

まずは、香芝市の子供たちが運動や文化芸術活動に親しむ機会を確実に確保するために教育委員会事務局が主体となりまして、地域クラブ活動を軌道に乗せることを最優先して

の判断と言えます。

以上です。

○小西高吉 その理念はしっかり分かっている中で、10年度に目指してということなんですけど、ちょっと危惧するのが、地域のこういう団体が、これほかのどこやったらもう来年度からスタートされていった中で、そういう団体がどんどん減っていくんじゃないかなと。ほかの自治体のことをされてて、香芝市まで手が回るのかなっていうのを危惧するんですよね。もともとそういうのを危惧する中で、今まで一般質問させてきていただいておりますけど、そういう心配はないですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） それぞれの自治体における取組方は、当然異なるということになるんですけれども、香芝市の地域クラブ活動を担っていただく団体については、今後も調整を進めてまいります。

以上です。

○小西高吉 今私が質問したことに対しての答弁になってんのかどうかちょっと分りにくいところがあるんですけど、はっきり言うて、はっきりしたことは言えないですよ、大丈夫やということも多分言えないと思うし、なくなるかって言われたら、それも分かんないと思うんですけど、そういう状況もあり得るということも理解しとかなないと、10年にはやりますって言うてるけど、受けてくれるところがなかったらできないですよ。しっかりスピーディーにさせていただくと、プラス育成も大事ですので、ぜひお願いしておきますが、次にほかの自治体ではNPO法人や総合型地域スポーツクラブとの連携が進んでいるんですけど、香芝市は結局進んでいないという理解になってくるんですかね。これ高田のことを例に出すと、高田はやまとたかだ地域クラブという名称の中で、直営型と自主運営型クラブと、2つのクラブと言うたらいいんですかね、組織があつて、高田市にも聞かせていただいたら、直営型においては、基本的に事務的なことっていうか、そこは業務委託して民間にさせていただくと、教育委員会からそちらへ業務委託すると。自主運営型のほうは、団体ですね、今ある団体をお願いします。この違いはなぜかっていうと、その団体の中でできる種目とできない種目、人材がいる種目といない種目があるんで、ないところは直営型という形ですというようにおっしゃっていたんですが、その点、先ほど質問しましたが、連携が進んでいるのかどうか。その点、お聞かせいただけます。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） NPO法人等の連携ということですが、本市におきましても将来にわたりまして生徒がスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保していくためには、その環境を整備するとともに、段階的に地域連携や地域移行に取り組んでいく必要があると考えております。

そのため、令和8年度におきましては、まずは教育委員会事務局が実施主体となることで、その基盤づくりや持続可能性の検証等を行います。それによって、将来的には地域と共にある地域クラブ活動となるよう、NPO法人や総合型地域スポーツクラブとの連携等を図っていきたいと考えております。

○小西高吉 地域の団体にお任せすることで、その指導者の確保はもちろんですけど、いろんなトラブルなり、そういうこともあり得るときに、そんな対応もその団体がしていただけると。ただ、これ教育委員会がされるということは、教育委員会全てまたそういうことを受けないといけない。今まででしたら学校で全て対応されてたことが、今度は教育委員会が対応しなければならないということになろうかと思うんで、その点いかがですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 教育委員会事務局が実施主体となってる間につきましては、教育委員会事務局がというふうに考えております。

以上です。

○小西高吉 職員さん、大丈夫ですか。対応できます。いろいろこの費用の面もいろいろ出てくると思うんですよ、保険の分とか。全て教育委員会がされないといけないというようになってくるのかなと思うんですけど、大丈夫ですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 教育委員会事務局が実施主体としてやっている間に、その辺、ノウハウも含めて検証いたしまして、確実な形で地域団体のほうにお任せする方向に進めたいというふうに考えております。

○小西高吉 していただけるというか、やるとおっしゃっていますんであれなんですけど、できたらそういう係とか、ちゃんと設けたほうがいいんじゃないかなと思うんです。教育委員会のどこの、教育課になるのか、総務課になるのか、生涯学習課になるのか分かんないですけど、ちゃんとした係として、これ専属で設けるほうが私はいいと思うんで、これは提案しときます。

根本的なとこを聞かせていただきたいんですけど、来年4月から休日においては学校の先生としての指導はなくなると。ちなみに、この休日っていうのは夏休みとかでいうと、どうなるんですか。基本的に学校の先生って夏休みっていうのは、その間も多分仕事というか、ちゃんとした業務として出勤されてますよね、平日。基本的に盆休みとかはあるのかなとは思いますが、基本的には、その場合は夏休みの月曜日から金曜日は平日と計算するのか、休日と計算するのか、そこら辺ってどういうふうな、県からのあれはどういうふうになってるんですかね。単純な疑問なんです。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） ここで言う休日というのは、カレンダーの土曜、日曜、それから祝日と、学校に関わらず一般的に休みの日のことを指しております。

以上です。

○小西高吉 ということは、夏休みであっても平日の部活動においては、今までどおりの学校の先生とした立場で指導されるという認識になるでいいんですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） はい。議員がおっしゃるとおりです。

以上です。

○小西高吉 分かりました。

意外とこれ一般的に夏休みイコール休みやという認識になるのかなと思ったんですけど、その点はまた子供さん方にもしっかり言っていただいたほうがいいのかと思います

ので、よろしくお願いいたします。

あと、教育委員会は移行を後押しする立場に徹し、地域側の人材組織の立ち上げを支援、スポーツや文化団体と市全体としてどう向き合っていくか、教育委員会以外の部署との連携もしっかり含めた中で、改めて検討をお願いいたします。

次に、中項目の(2)として、部活動コーディネーターの考え方についてということで、これも何回も提案もさせていただいて、聞かせてもいただいているんですけども、文部科学省も地域移行の鍵となる存在として明確に位置づけておられます、このコーディネーターというのを。ほかの自治体では、既に先行して導入、人材育成に取り組んでおられます。にもかからず、香芝市では一向に導入の気配がないですね。そして、香芝市地域クラブ推進会議、先ほどもおっしゃってましたが、ここにおいてもこの重要なことさえも一度も本格的に議題として取り上げられていないというようにも聞かせていただいております。

なぜ教育委員会だけで議論も経ずに何年も放置、放置しているのかどうか分かんないですけど、私からしたら放置されてるのかなと思ってしまうんですが、その制度の本質を理解されているのか、ちょっと疑問が残っております。

地域移行という制度は、地域と学校、指導者、家庭をつなぐ中間支援の人材としてコーディネーター、この部活動コーディネーターの存在が不可欠だと思っております。それにもかかわらず、その制度的・人的土台を市が全く整備されず、議論にも出さず、責任の所在も曖昧にしているのは極めて残念に思っております。

将来にいろんなものを残す対応じゃないのかなというように思うんですが、そこで部活動コーディネーターの必要性について、教育委員会としてどのように認識されてこられたのか。導入されない判断ならば、その責任というか、それは誰が取られるのか、そのお考えをお聞かせいただけます。

そして、先ほども申しましたが、この香芝市地域クラブ推進会議で議論されてないということも先ほど申し上げましたが、よく今まで質問した中に、答弁の中で、そこで検討しますとかという答弁も多かったんですけど、そんな中で一度もされていないように聞かせていただいていますんで、それもあえて付け加えておきますが、**コーディネーターの必要性について、教育委員会はどのようにお考えですか。**

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） まず、1つ目の**部活動コーディネーターの必要性**についてですけれども、部活動コーディネーターは、生徒、保護者、外部指導者、教職員など様々な関係者との連絡調整のほか、部活動の活動時間や場所の調整、土曜日や日曜日などの休日における指導者の確保など、学校の部活動を円滑に運営する上で重要な役割を担っており、必要な存在であると考えております。導入しない方針なのではなくて、教育委員会事務局がその役割を担う考えということになります。

それから、2つ目の香芝市地域クラブ活動推進会議においてどのように取り上げたのかということですが、香芝市地域クラブ活動推進会議では部活動コーディネーターの配置に関する事を議題としたことはありませんが、会議の中でその必要性についてのご

意見はいただいております。

以上です。

○小西高吉 コーディネーターの役を教育委員会がされるということだから、コーディネーターとしては置かないという1つ目の答弁ですよね。

ほんで、2個目もまとめて言っていたんですけど、そういうお話はあったけどもということですね、その会議において、推進会議においては部活動コーディネーターの話は会議のメンバーの方からお話はあったけども、それについては取り入れなかったということでしょうか、再度確認。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 繰り返して言いますが、コーディネーターを入れないのではなくて、教育委員会事務局がその役割を行うという形になります。

以上です。

○小西高吉 役割ね、いや、分かるんですよ。いや。そっからいうと、コーディネーターは置かないというか、入れないということですよ、外部からのコーディネーターを入れないということですよ。その役割は教育委員会が担うって、それは分かったんですよ。やけども、コーディネーターという人材は置かないということですよ、ですよ。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） はい。外部からではないという意味です。

以上です。

○小西高吉 ただ、教育委員会にコーディネーターという方がおられるわけではないですよ。基本的にコーディネーターの役割を教育委員会がされるということですよ。何か遠回しにいろいろおっしゃっていただけてるけど、結局そういうことですよ。じゃないんですか。コーディネーターという人材は置かないと。ただ、その役割は教育委員会で全てしますよということをおっしゃったんですよ。じゃないんですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 確かに、コーディネーターという役職はありますが、現実にはコーディネーターの役割に関することは、事務局の職員が現在既に行っております。

以上です。

○小西高吉 大丈夫だと認識しといていいということですね。いいんですね。そこだけ、ほんなら、はい。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） はい。先ほども述べましたが、地域の団体などにお任せするまでに教育委員会が責任を持って基盤をつくろうという、そういう考えです。

以上です。

○小西高吉 そこも教育委員会が思っていたら、それでぜひ不備のないようにお願いしたいなというように思います。

僕が何でこのコーディネーターのことを言うかという、教育委員会しんどいんじゃないかなと思うんでね。やることいっぱいありますよね、ほかにも。これだけにかかっているわけじゃないと思いますんで、そこを心配して、ちょっとでも楽というか、スムーズに行くよ

うにこういう方を、多分国のお金で100%出るとかという話もあったんで、その人の人材のお金、コーディネーターを雇った場合は。そういう話もあったんで、あえて提案してきましたが、教育委員会としてはその役割は全て教育委員会がやるという決意を持って進めていただいているというように認識しておきます。

次に、教育委員会だけで決めているのではないかという指摘に対して、市民や現場の教員の声を反映されているのか、議論の場を形式化、形だけにしてるんじゃないかというように思うんですが、その点のお考えはいかがですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 令和6年6月に小学校4年生から中学校1年生までの児童・生徒及びその保護者、並びに香芝市立小・中学校の教職員に対して部活動の地域移行に関するアンケートを実施したほか、令和7年4月には小学校5年生から中学校2年生までの児童・生徒に対して、希望する部活動や地域クラブ活動についてのアンケートを実施しております。

また、香芝市立中学校長及び部活動の顧問をしている教職員とは教育委員会事務局が継続的に意見交換や情報共有を行っており、それらの内容を踏まえた上で、地域クラブ活動の実施主体を教育委員会事務局とすることに決定いたしました。

以上です。

○小西高吉 反映されてると、簡単に言えばそういうふうに認識していいんですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） はい。先ほど述べたような形で反映ということになります。

以上です。

○小西高吉 アンケートとか取られたというのももちろん認識もさせていただいております。それが全て反映できるのかってなかなか難しいですね、いろんな意見があるんでね。それでも、反映できているというようにおっしゃっていただいておりますんで、そこは信用しておきます。

次に、先ほど来からも出てます推進会議ですね、香芝市地域クラブ推進会議、これは何のための会議体になるんですか。これ先ほど高田のことを申し上げましたけども、高田市においては令和5年3月24日に大和高田市部活動地域移行検討委員会設置要綱、これ附属機関として設置されているんですけど、香芝市においては、この推進会議自体はどういう会議体になるのか。入っておられる方から言いますと、存在意義はあるのかというようなお話も出てるんですけど、いかがですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 香芝市地域クラブ活動推進会議設置要綱第1条に基づいて、中学校における部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に関して、情報を共有し、意見を交換するための会議体となっております。

以上です。

○小西高吉 そういういろんな意見を聞かせていただく、そして共有とおっしゃられたんですけど、先ほど言ったコーディネーターのことも、その会議の方から上がったけども、上

がただで、その後どうするとかというのは共有されたんですか。今共有っておっしゃられたんで、あえて聞かせていただきますが。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 教育委員会がその役割を行うという中身で伝えています。

以上です。

○小西高吉 コーディネーターは置かなくて、コーディネーターの代わりに教育委員会がするということは、その会議で皆様に共有できたということで間違いないですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） はい。そう考えております。

○小西高吉 分かりました。そのように認識されているのであれば、そのように伝えてもおきます。

次に、中項目(3)つ目として、受益者負担の考え方についてお伺いさせていただくんですが、香芝市が出された「中学生を対象とする香芝市の地域クラブがスタートします。」と。ここに費用として、保険料800円、これは年間と。クラブ活動費、月額2,000円程度を予定、これ予定ってあくまで書いてあるんですけど、この2,000円に決まったプロセスをお伺いできますか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 教育委員会事務局内で検討を行った結果です。活動を希望する生徒全員が大きな負担なく地域クラブ活動に参加できること、また将来にわたって持続可能な体制を構築することを目標として決定いたしました。

以上です。

○小西高吉 教育委員会で決められたということですよ。ちなみに、これは先ほどの推進会議では共有できてたんでしょうか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） はい。推進会議でも共有できておりました。

以上です。

○小西高吉 それは、あくまでも教育委員会が決めたことを報告されたということですか、それともその会議においてそれを議題としてされたってことはあるんですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 香芝市地域クラブ活動につきましては、令和7年1月にホームページ掲載したと思うんですけども、2月の会議において共有できております。

以上です。

○小西高吉 ちょっと最後聞こえにくかったんですけど、それまでに共有したというように答弁されたんですかね。分かりました。

次に、この2,000円、これはあくまでも予定なんですけど、実際の活動費用に対して妥当であるという積算根拠をお教えいただけます。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 活動費の積算につきましては、令和7年4月に行った小学校5年生から中学校2年生までの児童・生徒に対するアンケートにおいて、取り組みたい地域クラブの種目を調査しております。その結果を踏まえて、クラブ員数や必要とな

る指導者数を割り出して試算しております。

なお、この金額は令和6年6月に行った小学校4年生から中学校1年生までの保護者に対するアンケートで、地域クラブ活動に対する受益者負担について調査しており、一定程度のご理解をいただいている水準であると考えております。

以上です。

○小西高吉 保護者のアンケート結果において2,000円以下ぐらい、この辺が多かったという認識の中でされているのかなというようにおっしゃっていただいたのかなと思うんですけど、ちなみにそしたらこの保護者アンケートで無料っていうのが全てを占めていたら、無料になったんですか。

ちなみに、私このアンケートをして、無料にすべきだという文言も入れさせていただいたんですけど、いかがですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 仮定の話になりますので、明確なお答えはできませんが、検討はさせていただいてはとと考えております。

以上です。

○小西高吉 アンケートの結果においては、もし無料だったらそれを検討されたっていう答弁ですか、今の。今どういう答弁をされたのか、ちょっと分かりにくかったんですけど、そういう意味でおっしゃられたんですか。再度、お願いします。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 無料という意見が仮に圧倒的多数であったとか、そういうことであれば、当然それについても検討する必要があったというふうに考えております。

以上です。

○小西高吉 ちなみに、そしたらこの2,000円も検討されたんですよね、ですよね。検討されて、いろいろ検討された中でアンケート的にも多いし、この2,000円だったら何とか妥当かなというところで、これ逃げ道としてこれ予定って書いてますけど、そこからいくと積算根拠を先ほど聞きましたけど、そこはどのようにこの2,000円っていうところにたどり着くような形だったんですか、アンケートは別として。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 先ほど述べました地域クラブに参加する生徒数、それからクラブの数とか、それから必要となる指導者の数であったり、それから保険の金額とか、そういうことを試算しまして2,000円程度ということを決めております。

以上です。

○小西高吉 今保険というのもおっしゃられました。保険は別ですよね、これ。保険料年間800円ってこっちには書いてますけど。違いますよね。今の計算の中に保険料も入れてしまうと、この保険料は何になるのかが分からないんですけど、そこ間違ってますか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） すいません。言い方が悪かったです。生徒の保険は、月額2,000円とは別です。言い直しますけれども、指導者の報酬であったり、交通費、それから指導者の保険料、その辺のところを計算しました。

以上です。

○小西高吉 指導者のための保険ということですね。はい。分かりました。

あと、ほかの自治体との比較はもちろんされてるのかなと思うのと、経済的困窮を抱える世帯への配慮ですね。一番皆危惧されるのが、その月額費用が払えないからもうやめてしまわざるを得んという方も出てくると思うんですけど、それプラス、スポーツと文化クラブ、スポーツクラブと文化クラブでも活動自体の違いによって、そういう点も変わってくるのかなと思うんですけど、費用的な部分も。その点、政策的な視点を持った検討はされたのでしょうか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 奈良県内にある他市の担当者とは保護者負担の金額等も含めて情報共有をしており、それぞれの地域性や生徒数等の状況に応じて対応していることは把握しております。

可能な限り低廉な活動費での実施を目指すとともに、国や奈良県の支援に関する動向を踏まえ、就学援助制度の充実や独自支援の可能性について検討を進めております。

また、運動部と文化部、それぞれの種目によって活動内容が多種多様で、かかる費用は異なることにはなりますが、種目によって差をつけることは予定していないため、家計負担は変わらないというふうに考えております。

以上です。

○小西高吉 いろいろほかの自治体とも研究というか、意見交換もされたということで。ちなみに、大和高田市は令和7年、今年度からスタートしていかれると。実験的にというか、この7年度から徐々に始めていって、今年度においては費用は0円、無償でというようにおっしゃられてました。令和8年4月、来年4月からの費用を今年度の状況を見て、どれだけ本当に必要なのかということを検討すると、そこまでおっしゃられてました。そこから行くと、大和高田、何か大分前に進んでおられるのかなと思うんですけど、この高田の状況を聞かれて、香芝市としていかがですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 自治体によって状況は違いますので、全く同じことはできないと思うんですけども、高田市にしても生徒のためを考えてこういう結論に至ったというふうに担当としては考えておりますし、香芝市としましても、生徒たちが持続的に活動できる形をつくるために進めております。

以上です。

○小西高吉 高田市みたいにこうやって実際に見てみて、どれだけ費用がかかるのかというのをはっきり出されるんだろうと思うんですけど、割とこう納得というか、説得力があるのかなというように、保護者もあるのかな。ただ、高かったら説得力があろうがなかろうが皆反対されると思うんですけど。ぜひ2,000円までで、本当は私は、今まで基本的に無償ですね、部活動というのは。年間何かの費用で2,000円、それは年間の話なんですけど、基本的に無償やという中で来てて、急に毎月お金要りますよというのが不公平に思っ仕方ないんで、私はただにしてあげるべきやというように、これは言っておきます。

そして、次に行政が果たすべき役割は正当な根拠と責任を持った政策判断、この2,000円という金額がその責任ある判断であると言えるのか、教育委員会の見識と姿勢が問われると思います。

これは、本来部活動を生徒のために続けるという建前に反して、形式だけを整えて実態が伴っていないように考えるんですが、その点、教育委員会としてはいかがですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 目指すべき実態は、生徒たちがこれからも現在の学校部活動にできるだけ近い形で休日もスポーツや文化芸術活動に親しむことができる環境を構築することだと考えています。

家庭で負担いただく金額は、その大きな要素となるため、教育委員会事務局で熟議を重ねてまいりました。今後も可能な限り低廉な金額とできるよう、努力を続けてまいります。

以上です。

○小西高吉 ぜひ本当に負担のないように、保護者に負担のないように、そして保護者が無理して出しておられる姿を子供さんが見たときに、やっぱりやめようということにならないように、ぜひ本当にそこまで考えていただいた中で決定もいただきたいしと思います。よろしくお願いいたします。

次、中項目(4)として、合同部活動、合同チームですね、の考えについてということで、現在は中学校単独で行っておられる部活動をほかの中学校と合同のチーム、部活動にするというのを聞かせていただいているわけなんです、その根拠をお教えいただけますか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 部活動の地域移行に当たり、拠点校方式として、複数の中学校のチームを統合する理由は、主に2つございます。

1つ目の理由は、必要となる指導者数を削減することで重複する経費を抑えることにより保護者負担を最小限に抑えるためです。

2つ目の理由は、兼職兼業で指導を行う教職員も含めて、平日に働く方が毎週指導をしていると長時間の労働になりますが、活動するチーム数が少なくなれば、1日当たりの指導者数を削減して、交代で指導することが可能となるためです。

以上です。

○小西高吉 この合同というか、拠点校ですかね、これについては生徒や先生方の声、思いは反映されていますか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 令和7年3月に保護者向けのオンライン説明会を開催した際には、拠点校方式として複数の中学校のチームを統合することに関し、練習場所への移動や大会等に出場できる生徒の割合が減るなどの懸念について意見はございました。

先ほど答弁した理由により、チーム統合の判断をいたしております。また、香芝市立中学校長及び部活動の顧問をしている教職員とは、教育委員会事務局が継続的に意見交換や情報共有を行ってきたことから、理解を得ているというふうに考えております。

以上です。

○小西高吉 それは、あくまでも学校の先生だけの話ですよ。実際に子供たちの思いっていうか、声はっていうか、聞かれたことってあります。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 先ほどから言っておりますアンケートとかQ & Aとか、その形でということになります。

以上です。

○小西高吉 1つというか、2つを1つにしたり、合同チームっていうか、合同部活動にすることで指導者の数も減ることで保護者の費用負担が少なくて抑えることができるという答弁、先ほどおっしゃっておられましたけども、ただ子供たちの本当の部活動を続けたい者からすると、いや、今現在部員数が少なくて試合にも出れないと、人数が少ないからね、例えば野球部で言うと9人もそろってないと、そんなところやったら、試合に出るためにどっかの学校と一緒にしないと試合に出れないとかというのやったら多分納得されるんですよ、納得すると思う、納得せざるを得んですね、試合に出るためにはどっかとひとつかなあかんと。せやけど、今現在、現在ももちろんやし、来年の4月以降もそんな多分変化はないやろうと思うんです。今現在、野球で言うたら20人以上いると、Aの学校がね。Bの学校も20人以上いると。これ単独で今試合にも出られてる。ベンチ入りもできない子もまだいてる中で、これ1つになるイコール子供たち喜びます。出れる可能性少なくなるんですよ。特に、Aの学校が強かって、Bの学校がもし弱かった場合、これ1つになったらAの学校の子ばかりが試合に出ると。Bの学校の子、もうやめようってならないですか。子供の気持ちで1回考えていただけないですか。その点、いかがですか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 現実そのようなことが起きる可能性はあるというふうに考えております。

ただ、指導者の確保の問題も含めまして、それと受益者負担の問題からこういうことが必要であるというふうに判断いたしました。

以上です。

○小西高吉 そしたら、もし費用のことを考えなかったら今のままで行かれるんですか。せやから、指導者も確保できて、今現在されている先生方もそのまま土日、休日は兼職兼業でやっていくとおっしゃってると。それから、指導者もいて、部員も十分そろってる、その中でもし費用がゼロだという場合においては、その場合は今の形をそのまま続けられることができるんでしょうか、その点のお考えは。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） 仮定の話になりますが、費用を考える必要がない、指導者の心配もする必要がない、部員数も心配する必要がないというのであれば、選択肢に入ってくると思います。

以上です。

○小西高吉 費用のことを心配しなくていいということをおっしゃっていただいたんで、そこで教育長にお伺いするんですけど、費用を本当に抑えるために、教育長からいくと予算要望的なことは市に対してなのかなと思うんで、その点とかのお考えいかがですか。

○小西友吉 地域クラブ活動については、目指す姿というのはどの生徒も希望のスポーツや文化活動に取り組むことが可能であること、その環境を構築することだと考えております。そのために必要な予算があれば、これは前向きに検討していきたいなと思っております。

○小西高吉 その予算ですね、十分あればということやけど、それに対して十分確保するための行動的な要望とか、そういう動きはないですかって聞かせていただいているんで、その点、教育長のお考え。もちろん分かってるんですよ、教育長が言うてはんの、お金さえあったら今言いはったようにやっていくよっておっしゃっていただいているのは分かってんねんけど、ただその財源となるものを確保しない限りはね。結局は、兼職兼業で先生方がされるに当たっても、1時間当たり1,600円っていうのが発生するんですよ、ですよ、これ。ですよ。ほんなら、次長、答えてもらえますか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） これまで当市で行っているスポーツ庁、文化庁等の実証事業の中では、標準単価として1,600円っていうのが定められておりますので、恐らくほかの自治体も含めまして、それに近い金額になるのではないかというふうに考えております。

以上です。

○小西高吉 せやから、そういったお金も全部確保できたら、保護者から費用を負担してもらわなくてもいけるというようであればできるって多分おっしゃっていただいたんやと思うんですけど、教育長、先ほど。ただ、それに対しての確保のためのお考えはっていうのを聞かせていただけたらと。

○小西友吉 クラブ活動をするための予算としては提案していきたいと思うんですけども、全ての予算を立てるということについては、考えていかなきゃいけないこととございます。これは、地域移行で教員の負担をなくすということで、そして先ほどから言ってますように、兼職兼業で負担というのは教員が毎日するべきでないということもあって、クラブ数は減らしていかなと将来的に続かないということ为先ほどから陀安のほうから言っておったと思います。

○小西高吉 いや。そこは、十分理解もさせていただいているんですけど、今回兼職兼業も絶対したらいけないことは、強要したら駄目だということも書いてますよね。あくまでも自主性、本人がやりたいという人らだけにしなさいというように、国のやつも県のやつも書いていました。そこは、十分理解させていただいて、ただその手を挙げる先生方が指導者として休日のときにするっておっしゃっている人がおる間は今の形を継続できないですかということを僕は言っているだけで、指導者がおられない、部員数も少ないって、これは必然的に理由がはっきりしてるんで、合同チームというか、拠点校になるのは仕方ないと思ってるし、子供らも保護者も納得できる材料やとは思ってるんですけど、今の現状でいくと手を挙げておられるって聞いてるんで、平日教えておられる、今現在の顧問の先生方は休日の部活動も兼職兼業で指導を続けますと手を挙げておられる場合においてはどうかっていう

問いやったんですけど、理解できますか。

○教育部次長（学校教育課長事務取扱） すいません。先ほどと同じになりますが、仮定の話になりますが、その費用の面、それから生徒数の面、指導者数の面、指導者に関しましては毎週参加しなくてもいいレベルの人数が確保できるっていう意味になりますが、その辺のところは全てクリアできるのであれば、議員のおっしゃるように、今の部活動と同じような形態っていうのは選択肢に入ります。

以上です。

○小西高吉 同じことばかり言ってるんであれなんですけど、そしたらこの保護者の費用負担を本当に少なくする、本当はゼロに私はしてほしいと思ってるんですけど、そのために市長として、こうなってくると国と県にもしっかり要望もしていただきたいと思います。なんですけど、市長としてのお考え、お聞かせいただけますか。

○市長 中学校部活動地域移行に関しましては、今まで教育部のほうで様々な答弁があったと思いますが、市長部局に対しましてまだそれに要する経費等の全体像等がまだ示されていない状況でございます。また、その財源の確保について、どのようにしていくかというところにつきましても、なかなか具体的な方策が見えていない状況でございますので、必要に応じて国や県に対して財源確保に向けて検討をしていきたいと考えてございますし、そのあたりは教育委員会とも連携を緊密に図りながら、教育的な観点から子供たちにとってよりよい環境になるようにしっかりと対応してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○小西高吉 ぜひ、香芝市だけの問題じゃないんでね、これ全国的な問題でもあり、奈良県で言ったら全部の自治体が同じ立場だと思うんで、皆さんしっかり横のつながりを持って、皆さんで要望を上げていただきたいというように思います。

ぜひ生徒の不安を払拭して、将来の夢を、先ほど教育長も言われたけど、途中でやめるようなこと、夢を捨てるようなことがないように、そして将来に夢を持てるような、そんな部活動にぜひしていただくことをお願いして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。